

論文審査の結果の要旨

氏名：石垣 久美子

博士の専攻分野の名称：博士（獣医学）

論文題名：獣医学領域における低侵襲治療法の臨床応用に関する研究

審査委員：（主査） 教授 浅野 和之
（副査） 教授 亘 敏広
（副査） 教授 中山 智宏

1. 獣医学研究分野における学術的重要性と新規性

本論文は、光線力学療法、経皮経静脈的コイル塞栓術、内視鏡外科といった低侵襲治療法を獣医学領域に臨床応用し、その治療効果を研究したものである。獣医学領域、特に小動物領域において、外科療法は局所の治療として有効であるものの、その侵襲性が高いことが問題となっている。医学領域では、このような低侵襲治療法は外科的切除を伴わない、あるいは最小限の外科的切除で高い治療効果を得ることを目的に実施されており、さまざまな疾患に応用されている。一方、獣医学領域ではその情報は非常に限定的である。本論文は、従来の治療法と比較して可能な限り侵襲を少なくしながらも良好な治療効果が得られたことを証明しており、その学術的重要性は非常に高いと言える。また、放射線治療後に最増殖した犬の鼻腔内癌に対して光線力学療法が奏功すること、犬の肝外性門脈体循環シャントにコイル塞栓術が従来の外科療法と同等の治療効果が得られること、さらに内視鏡外科または内視鏡補助下手術によって犬の肺葉切除や特発性乳び胸の治療に応用できることを証明したことから、臨床獣医学上新しい情報を提供している。以上のことから、これらの内容は獣医学研究分野における学術的重要性と新規性を有するものと判断された。

2. 関連する国内外の研究内容の調査・解析の妥当性

臨床獣医学において低侵襲治療法が適応可能な疾患は多く、その手法を確立するのは多大な時間を要する。本論文は、小動物臨床現場で比較的遭遇する4つの疾患にターゲットを絞り、それに関する国内外の既報をトレースしながら臨床データを集積している。また、得られたデータを統計学的に解析し、それぞれの疾患における低侵襲治療法の治療効果を証明している。したがって、本論文の調査・解析は妥当であると判断された。

3. 得られた研究成果の公表実績（論文発表・学会発表）

本論文の第1章に相当する部分は Journal of Small Animal Practice に、第3章の一部は Veterinary Surgery に、そして第4章の一部は Journal of Veterinary Medical Science にそれぞれ掲載されており、現在第2章に相当する部分が BMC Veterinary Research に審査中である。したがって、本論文に関連する論文は3報掲載されていることから、公表実績は論文博士の基準を満たしているものと判断された。

4. 獣医学研究分野または社会に対する波及性

本論文で得られた成果は小動物臨床の発展に大きく寄与するものであり、インターベンショナルラジオロジーや内視鏡外科が小動物臨床現場でも適用可能であるだけでなく、従来の治療法を凌駕する治療成績を生み出す可能性を提示しており、治療の選択に悩む飼主にとって福音となる可能性を秘めている。さらに、トランスレーショナルリサーチの観点から本論文の成果は医学領域への波及性も考慮される。したがって、本論文は獣医学研究分野ならびに社会に対する波及性を有していると判断された。

5. 論文作成に対する自主的な研究遂行性

本論文において、臨床データを自ら集積し、解析を行っている。本論文で使用したすべての症例の治療

および術後管理に積極的に関わり、指導教員とディスカッションしながらそれらを推し進めていった。また、低侵襲治療法における細かなテクニカル部分の改良について、本論文に関連した獣医師と一緒に主体的に行い、より治療効果を高めるのに役立てた。さらに、本論文とは別に、他の大学院生の研究にも関与し、数多くの論文の研究に参画している。このように、自主的に研究を遂行し、論文の作成を適切にできる能力を有していると判断した。

よって本論文は、博士（獣医学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以上

令和 5年 2月 7日